



わたしたちの地域を守る消防団

地域防災力の要として活躍している消防団。実際にどのような活動をしているのか。どのような思いで活動しているのかに迫りました。

■市安全安心課 ☎31-1124

消防団って何？

消防団は消防組織法に基づいて、各市町村に設置されている消防機関です。平成27年4月1日現在、鹿屋市消防団には47分団に965人（定数1,055人）の消防団員が在籍し、ほとんどの人が、自分の仕事と消防団活動を両立させています。

その職種は、自営業、会社員、農業、漁業、建設業、公務員など様々で、仕事と家庭に忙しい中、「自分たちのまちは、自分たちが守る」という使命感で活動しています。

消防士と消防団員の違いは何？

両者の大きな違いは、地方公共団体の職員として消防署に勤務し、消火活動や人命救助

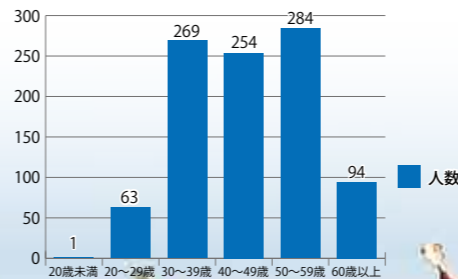
助などを行うのが消防士で、一方、自営業や会社員など自分の仕事を持ちながら消防団活動を行うのが消防団員です。

同時に多くの災害が発生した場合、消防士と消防団員が連携して活動しなければ、被害の拡大を抑えることはできません。また、消防署からの距離が遠い地域では、消防士の現場到着に時間がかかることもあり、地元消防団員による発災初期の活動が大変重要になってきます。

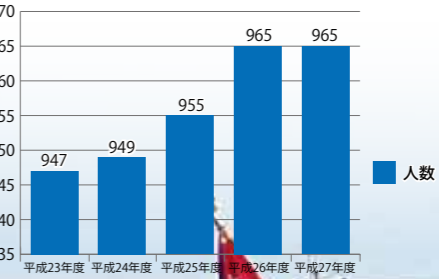
消防団員は地域防災力の担い手であり、消防署と消防団が一体となって機能することで、大きな力を発揮しています。

つまり、市民の安全・安心を守るために必要不可欠な存在。それが「消防団」なので

年齢層別消防団員数（平成27年4月1日現在）



鹿屋市消防団員数（平成27年4月1日現在）



《団長の思い》 みなさんに頼られる 消防団を目指して

鹿屋市消防団の荒平純昭団長に、消防団活動に対する思いや今後の活躍が期待される女性消防団員について話を伺いました。



鹿屋市消防団
あらひら すみあき
荒平 純昭 団長

昭和52年4月に荒平消防分団に入団。平成3年7月に荒平消防分団長、平成26年4月に鹿屋市消防団長に就任。70歳

これまでの消防人生

昭和52年に荒平消防分団に入団してから38年。これまで務めてこられたのは消防を好きな思い。そして、入団してから増えた多くの仲間のお陰です。それと家族の理解や協力。本当に感謝しています。

これまで、幾多の災害現場に出動しましたが、特に印象深いのは、平成5年夏の集中豪雨。荒平地区は周辺道路のがけ崩れにより孤立する中、自宅隣の宅地も陥没し液状化も発生。家屋は大きく傾き、団員は丸3日間24時間体制で監視を続け、被害の拡大を防ぐことができました。

また、消火活動は1分1秒を争います。

消防署から離れた地域であるほど、現場に素早く到着できる地元消防団の初期消火は重要です。

平成7年、古江地区で発生した建物火災は、住宅8棟や倉庫等7棟が全半焼となる大規模火災で、荒平からも応援に駆けつけました。燃え盛る炎を前に懸命な消火活動を続け、1人の犠牲者も出さなかったことは、今でも忘れられません。

これからは女性消防団員が活躍する時代

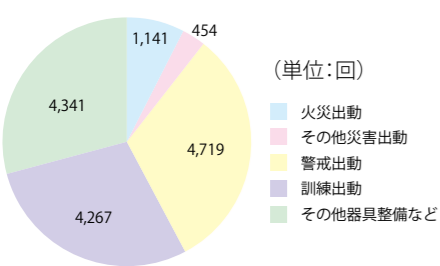
消防団と聞いて、消火活動を想像する人も多いと思われませんが、消防団

の活動は多岐にわたります。

現場での避難誘導、進入禁止措置、被災者への心のケアなどのほか、行方不明者の捜索や高齢者宅への訪問指導などがあり、任務の内容によっては男性よりも女性の方が向いていることも沢山あります。

現在、女性の消防団員は12人。全国的にも消防団員数が減少する一方で女性消防団員数は増加傾向です。今後、1人でも多くの女性が入団していただき、地域の安全・安心を一緒に見守って欲しいと思います。そして、今年度中に女性団員が25人位まで増えてくれると嬉しいですね。

平成26年度 消防団員の出動回数



昼夜を問わず、連絡を受ければ現場に駆けつけます。



出初式での団員整列